

国有林野 事業の取組

九州森林管理局

貴重な森林生態系を 守るための保護林設定・ 拡充に向けた取組の推進

はじめに

琉球諸島の森林は、大陸との関係において極めて独特な地史を有し、固有性の高い亜熱帯生態系やサンゴ礁生態系からなっています。アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナなどの絶滅危惧種をはじめ多くの固有の生物個体群が生息していることから、当局では、琉球諸島（奄美群島、沖縄北部、西表島）の国有林において貴重な自然生態系の保護・保全対策を推進することとし、学識者などからなる委員会を設置し、意見を伺いながら、保護林（森林生態系保護地域）の設定・拡充について検討を進めています。

また、琉球諸島は平成一五年に世

界自然遺産の国内候補地に選定されましたが、今後、世界自然遺産として登録されるためには、その貴重な価値の保護担保措置が必要です。

今回の保護林の設定・拡充は、そのひとつとして重要な役割を担うことも視野に入れています。

琉球諸島における 検討の概要

①奄美群島 （奄美大島、徳之島）

奄美群島の森林は、世界の中でも限られた地域に成立する亜熱帯性常緑広葉樹林で、熱帯性の樹種と暖温帯性の樹種が混在するほ



か、奄美群島にしか分布しない固有種も数多く生育しています。また、生物相についても多様性に富んでおり、アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、オオトラツグミ、ルリカケスなどに代表される多くの遺存固有種が存在するとともに、クロイワトカゲモドキ、コキクガシラコウモリなど、新固有の状態の種や島嶼間での亜種などが数多く見られています。このように、奄美群島の地域に生息・生育している動植物は、希少性、重要性が高く森林生態系からなる自然環境を適切に保全管理してい



くことが必要となるため、学識者等からなる委員会を設置し、「森林生態系保護地域」の設定に向けて現在、検討を行っています。

② 沖縄北部（沖縄本島）

沖縄北部国有林の森林は、面的な広がりをもった原生的な天然林として、亜熱帯常緑広葉樹林のスタジイ

林やオキナワウラジロガシ林、山地の稜線部に発達する雲霧林、溪流沿いの岩上に発達する溪流植生など、山原や琉球列島を特徴づける希少種や固有種が数多く見られ、北部国有林内に生息する維管束植物は七十九種にのぼると推定されています。一方、生物相についても多様性に富んでおり、大半の種が南西諸島の固有種、固有亜種で森林に強く依存する種が多いことが特徴です。近年に至るまで哺乳類の新種の発見があるな



ど特異性も顕著であり、オキナワトゲネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラなどに代表される多くの遺存固有種を有しています。

北部国有林は、現在、米軍北部訓練場として使用されていますが、平成八年の「沖縄に関する特別行動委員会（SACO）」の合意によりその一部が返還されることとなっています。このため、返還後の国有林の取扱について平成九年度より学識者等からなる委員会を設置し、審議を重ねてきましたが、平成二十一年三月に九州森林管理局長に対し答申が行われ、この森林の重要性に鑑み「森林生態系保護地域」の設定などが提言されています。

③ 西表島

西表島の森林は亜熱帯林に属し、山地帯にはスタジイやオキナワウラジロガシに代表される常緑広葉樹の原生林のほか、河口域には国内最大規模のマングローブ林が分布しています。これら森林には、イリオモテヤマネコやカンムリワシなどの天然記念物をはじめとした特異で希少な固有動植物を含む多様な生態系が形

成され、学術的にも価値の高い自然環境が保たれていることから、平成三年に「西表島森林生態系保護地域」を設定し、保護に努めてきました。

現在、設定後二〇年近くが経過し、保護林以外の森林においても森林生態系としての充実が見られるようになる一方、豊かな自然を求め来島する観光客などが年々増えてきており、保護林を取り巻く環境に変化が生じています。このような状況を踏まえ、本年一月に学識者等からなる委員会を設置し、既設の保護地域の見直し等を検討しています。

おわりに

九州国有林は、多種多様な植物、動物、土壌生物等が生息・生育し、その立地条件、気象などの環境により多様で複雑な生態系が構成されており、生物多様性の保全において重要な地域となっています。このため、今後とも学識者や地元関係者の意見を聴きながら、保護林の設定・拡充やモニタリング等を通じた保全管理に努め、「国民の森林」として適切に管理経営することとしています。